

## 図書紹介

◎熱帯林再生技術研究成果報告書 B5版 422 pp. 熱帯林再生技術研究組合  
1997. 3刊 頒価 4,200 円 (送料別)

本書は、平成3年度から7年度まで5年間にわたって実施された林野庁の「熱帯林再生技術開発促進事業」の研究成果を取り纏めたもので、技術研究組合に参加した企業10社により、15課題について報告されている。内容は東南アジアの熱帯地域での森林造成を目的に、栄養繁殖による苗木の大量増殖、育苗、植栽、保育の各分野にわたって現地適応試験を主体に行った広範囲に及ぶ研究のほか、地域住民の生活向上に直接役立つ社会林業の課題も含まれている。栄養繁殖による苗木の増殖では、種子生産が不定期であり、しかも種子貯蔵が難しいために、定期的に一定量の苗木を生産することが困難な、フタバガキ科樹種の数種について挿し木条件を明らかにし、また、組織培養によって、*Acacia*, *Rubroshorea*, *Anthoshorea* の数種について苗条体を作ることに成功した。一方、*Acacia mangium* を材料として、植物に耐酸性遺伝子を導入する試みも行われた。育苗関係では、菌根菌等の微生物を利用した育苗方法が検討され、有効性が明らかにされた。植栽、保育分野に関しては、インドネシアではフタバガキ科を中心にした造林技術について、パプア・ニューギニアでは在来・先駆樹種を中心にした大径木生産林の早期育成に関する試験・研究が行われた。またベトナム、パプア・ニューギニアの試験地では土壌と生産力との関係が追求された。社会林業分野では、果樹混植、セラック貝殻虫の培養、茶樹の植栽などの研究が進められ、こうした取り組みが森林の保全・再生に重要であることが明らかになった。これら各分野の研究成果は今後の熱帯林再生研究の推進に大きく寄与するものと期待される。

(谷田部 昭)